

# 日本家族社会学会ニューズレター

Japan Society of Family Sociology Newsletter

No. 72 2024年5月15日発行

編集 佐々木尚之（庶務委員・広報担当）  
発行 日本家族社会学会事務局  
〒263-8522 千葉県稲毛区弥生町 1-33  
千葉大学 文学部 米村千代研究室  
☎ 043-290-2289

## 目次

|                    |    |
|--------------------|----|
| 会長挨拶               | 1  |
| 日本家族社会学会第34回大会のご案内 | 2  |
| 理事会報告              | 4  |
| 各種委員会報告            | 4  |
| 追悼 正岡寛司先生          | 10 |
| 会員異動               | 12 |

## 会長挨拶

山田昌弘（日本家族社会学会会長／中央大学）

今年度、最初のニューズレターです。みなさま、お変わりなくお過ごしでしょうか。

昨年末、待望の家族社会学会編『家族社会学事典』（丸善出版）が刊行の運びとなりました。学会の創立30周年事業として企画され、3年の歳月をかけ、学会の総力を挙げて制作に取り組んで参りました。当時の会長である池岡義孝・編集委員長、編集委員のみなさま、そして、執筆に当たっていただいた会員のみなさまのご尽力に感謝いたします。

通して読み返していきますと、家族社会学に関わるあらゆる領域が網羅され、現在の家族社会学の到達水準が凝縮されています。事典としての利用はもちろん、通読しても、拾い読みでも役に立つのではと思います。今期の理事会中に発行できたこと、まことに喜ばしいことだと思っております。

今期理事会も折り返し点にきました。みなさまの研究をサポートできるよう、これからも理事一同努力して参る所存です。よろしくお願い申し上げます。

## 日本家族社会学会第 34 回大会のご案内

コー ダイアナ（第 34 回大会実行委員長／法政大学）

日本家族社会学会第 34 回大会は、2024 年 9 月 7 日、8 日に法政大学の市ヶ谷キャンパスにて対面で開催いたします。自由報告、総会、託児サービスは、市ヶ谷キャンパスでもっとも新しい大内山校舎の 4、5 階の教室、シンポジウムはその次に新しい富士見ゲートの大教室で行う予定です。「茶話会」の会場は外濠校舎の 6 階のホワイエにて行います。昨年と同様、楽しい交流を期待しています。

大会実行委員会は、実行委員長のコー ダイアナのほか、佐伯英子会員、平森大規会員、菊澤佐江子会員の法政大学教員 4 名で務めます。くわえて、市ヶ谷キャンパスの学際的かつ多様な文化背景をもつ学部生たちのサポートを得て運営していきます。良い大会となるように準備を進めていますので、みなさまぜひ奮ってご参加ください。

1. 日程：9 月 7 日（土）、8 日（日）
2. 会場：法政大学市ヶ谷キャンパス

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

交通アクセスの総合情報：<https://www.hosei.ac.jp/ichigaya/access/>

JR・地下鉄 市ヶ谷駅、飯田橋駅から徒歩 10 分、地下鉄九段下駅からは徒歩 15 分です。詳しい情報は下記の通りです。

- JR 市ヶ谷駅：地上改札口（プラットホームの四ツ谷駅/三鷹方面側にあり、地下に向かう「メトロのりかえ専用口」ではない改札口です）
- JR 飯田橋駅：西口改札口（プラットホームの市ヶ谷駅/三鷹方面側にあり、改札を出ると牛込橋が目の前にあります）
- 地下鉄 市ヶ谷駅：5 番出口（南北線、有楽町線）  
東京メトロ南北線（3 号車が出口に一番近い）  
東京メトロ有楽町線（1 号車）
- 地下鉄 市ヶ谷駅：A4 出口（都営新宿線）  
都営新宿線（10 号車）

- 地下鉄 飯田橋駅：B2a 出口（南北線、有楽町線、大江戸線）または A4 出口（東西線）  
東京メトロ南北線（5,6号車）  
東京メトロ有楽町線（9,10号車）  
東京メトロ東西線（10号車）  
都営大江戸線（1号車、最短経路でも出口までの距離が長めです）
- 地下鉄 九段下駅：出口1か2（いずれも靖国通りに出ますが、1は「靖国神社」側で、会場に比較的近いです）  
東京メトロ東西線（2号車）  
東京メトロ半蔵門線（6号車）

### 3. 参加方法

大会ホームページでの事前登録と参加費の納付（クレジットカード払い）が必要です。当日参加は受け付けていません。期日までにお申し込みください。

大会ホームページ

<https://www.jsfs-family sociology.org/conf/2024/>

大会参加費は、一般会員 4000 円／学生・減額・終身会員 2500 円です。「茶話会」（お茶とお菓子のある交流会）は参加無料（参加人数を把握するため、事前登録をお願いする予定）です。

### 4. 昼食

両日とも、事前にお弁当購入の申込を受け付けます。お弁当購入の申込方法については、後日、大会ホームページに掲載いたします。

<https://www.jsfs-family sociology.org/conf/2024/participant.html>

なお、徒歩 10 分圏内に、レストラン、スーパー、コンビニがあります。

### 5. 宿泊

各自で手配をお願いいたします。JR・地下鉄市ヶ谷駅、飯田橋駅、九段下駅周辺には多くのホテルがあります。以下はよく利用されるホテルです。いずれのホテルにも学会特別料金はなく、ホテルから会場までの送迎サービスも提供していませんので、あらかじめご了承ください。

アルカディア市ヶ谷

<https://www.arcadia-jp.org/>

グランドヒル市ヶ谷

<https://www.ghi.gr.jp/>

京王プレッソイン東京九段下

<https://www.presso-inn.com/kudanshita/>

## 6. 託児サービス

今大会も託児サービスを実施する予定です。詳細が決まり次第、大会ホームページでお知らせします。

## 7. Wi-Fi

学内専用の無料 Wi-Fi サービスを提供します。当日受付にてご利用方法をご確認ください。

## 8. 大会に関するお問い合わせ先

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1 法政大学グローバル教養学部 コー ダイアナ  
日本家族社会学会第 34 回大会実行委員会

E-mail: jsfs-taikai☆bunken.co.jp (☆を@に変えてください)

ただし、大会申込、参加登録、事前納付等についてのお問い合わせは、以下の日本家族社会学会大会ヘルプデスクにお願いいたします。

E-mail: jsfs-desk☆conf.bunken.co.jp (☆を@に変えてください)

# 理事会報告

## 第 11 期第 7 回 (2023 年度第 3 回理事会議事録 (抄) (略))

# 各種委員会報告

## 編集委員会

### 1. 『家族社会学研究』36 巻 1 号および 2 号の編集状況について

『家族社会学研究』36 巻の編集は、コロナ禍も落ち着いたことから、昨年 9 月から東編集委員会 (東京)、西編集委員会 (京都) とともに第 1 回編集委員会は対面で実施し、とくに投稿の受付、さらに査読審査の開始にあたっては慎重に審議をおこなっています。第 2、3 回編集委員会、さらに最終念校は引き続きオンラインで開催しています。

編集の過程で課題となったのは、論文中に研究における倫理的配慮について「説明が適切にされているかどうか」「その内容が十分であるか」ということでした。複数の論文に対して編集委員会から追加説明を求めるなどの対応をおこないました。また、投稿論文では文字数のみならず、キーワード、書式や文献表記など執筆要項を遵守していないケースも多く見受けられました。投稿受付

前段階で編集事務局が何度も差し戻して修正を求めている現状を憂慮しています。場合によっては投稿受付不可になることもありますので、投稿前に再度、最新の投稿規程ならびに執筆要項をご確認いただけますようお願いいたします。

## 2. 電子投稿・査読システムの導入についてお知らせ

編集委員会では、長年、投稿・査読審査をメールによるファイル添付でやりとりをおこなってきました。第11期編集委員会では前々期・前期からの引き継ぎをふまえて協議し、2023年9月以降国際文献社から提案・説明を受け、その後編集事務局を通じて何度もやりとりをおこないました。その結果、

- ・会員の投稿時の利便性に資すること
- ・人為的ミスを限りなく排除すること
- ・査読者との原稿のやりとりもシステム化によりセキュリティー管理ができること
- ・編集委員会作業における効率化を図ること
- ・会員IDに紐づけ活用することが可能

などを考えて、2024年3月の理事会で電子投稿・査読システムについて審議を経てご承認いただき、2024年8月末の37巻1号の投稿から導入することにいたしました。

国際文献社に現行の編集委員会の査読ガイドラインおよび編集委員会作業マニュアルに則って、本誌に対応したシステムを新たに構築していただきます。準備が整い次第、会員のみなさまならびに査読をご担当いただく専門委員の先生方には8月の投稿に間に合うように、システムへのログイン方法はじめ操作方法などそれぞれ操作マニュアルを学会ホームページに掲示するほかメルマガ等を活用してご案内いたします。さらにご不明の点は編集事務局でも対応させていただく予定です。

## 3. 投稿規程・執筆要項・査読ガイドラインの改訂

電子投稿・査読システムの導入に伴って、学会ホームページ内の機関誌『家族社会学研究』サイトから会員番号およびパスワードを用いて電子投稿・査読システムURLにログインしていただき、システム上でやりとりがおこなわれることとなります。それに合わせて、投稿規程・執筆要項、査読ガイドラインを2024年3月31日付で改訂いたしました。投稿・査読方法の変更のほか、研究における倫理的配慮の記述、文献表記の方法等追記しています。

このニューズレターがお手元に届くころには最新の規程等を学会ホームページにアップし終えている予定です。投稿および依頼原稿等のご執筆の際には、常に最新の投稿規程・執筆要項をご確認いただけますようお願いいたします。

#### 4. 35 巻表紙の色ずれのお詫び

35 巻の表紙を 1 号と 2 号を並べますと、微妙に色が異なって見えます。これは国際文献社内印刷作業で、色は 4 色のインクの掛け合わせで再現しているとのことですが、ほんの数%の違いで色は微妙に変わり、インクは温度や湿度など環境によっても微妙に変化するため、印刷機によって微妙なずれが生じることもあるとのこと。今後、色の調整をもっと厳密に徹底するようお願いしました。

(杉井潤子・同志社大学)

### **研究活動委員会**

#### 第 34 回日本家族社会学会大会 (2024 年 9 月 7 日、8 日) について

「大会ニュース No.1」(4 月 1 日公開)でもお知らせしましたように、第 34 回日本家族社会学会大会は、コーダイアナ会員(法政大学)に実行委員長をお引き受けいただき、対面での開催にむけた準備を進めています。第 34 回大会ホームページもご覧ください。実行委員会とも協議した上で、この大会においてはポスターによる自由報告を再開することにいたしましたが、事前の申し込みがなかったため開催は見送ることになりました。またこの大会においても昨年度と同様にオンラインでの配信を原則実施いたしません。

シンポジウムは、「研究法の活用という観点から考える新時代の家族研究(仮)」を予定しています。社会学の研究法には、歴史があるものから相対的に新しく出現したものまで、さまざまなレパートリーがありますが、日本の家族社会学研究においては、頻繁に活用されている方法もあれば、あまり活用されていない方法もあるように思います。そして、このことは日本の家族社会学のありかたを特徴づけていると同時に、ともすれば、その可能性を狭めてしまっているようにも思われます。そこで今回のシンポジウムでは、日本の家族社会学研究ではあまり活用されてこなかった 3 つの研究法を取り上げて、それぞれの方法を用いて家族に関する社会学的研究を実践してこられた報告者のかたに研究成果をシェアしていただきます。そのうえで、討論者も交えて、それらの研究法の家族社会学研究にとっての意義、ひいては、研究法という観点からみた家族社会学の現状やこれからについて議論できればと考えております。パネリストとして五十嵐彰氏(大阪大学)、渡邊大輔氏(成蹊大学)、戸江哲理会員(神戸女学院大学)、討論者は村上あかね会員(桃山学院大学)を予定しております。

テーマセッションおよび特別セッション(国際セッション、ラウンドテーブル、書評ラウンジ)の企画申請は、4 月 12 日に締め切り、採択結果は個別に連絡いたしました。また、自由報告(口頭)の申し込みは、報告要旨原稿とともに 5 月 16 日(木)が締め切りです。大会参加方法等につきましては、本レターの大会実行委員会記事でご確認ください。

(木戸 功・聖心女子大学)

## 庶務委員会・事務局

### 1. 会勢について

2024年3月21日時点の会員数は、709名（一般会員509名、一般会員（顧問）6名、学生会員103名、会費減額会員71名、団体会員1名、終身会員(2023年度開始)19名、賛助会員0名、会費免除会員0名）です。

### 2. 第33回日本家族社会学会大会 会計決算の監査

すべての会計書類について監査を行い、相違ないことを確認しました。

### 3. 今年度の学会事務業務委託契約

昨年度に引き続き、4月1日から学会事務業務を委託する契約を国際文献社と3月31日付で結びました。

### 4. 会費納入のお願い

新年度の会費納入の依頼がお手元に届いていることと存じます。すみやかな会費納入にご協力ください。なお、会費納入は可能な限り、郵便振込みないしは銀行振込みをご利用いただけますと幸いです（クレジットカードの場合、利用料が事務経費の負担になります）。また、カード決済が可能な期間は4-6月ですので、利用申し込みを含め、早めにご対応をお願いいたします。

### 5. 会員情報の確認・更新

マイページにて会員情報を確認し、身分異動や転居があった場合は速やかに更新をお願いいたします。

### 6. 会費の減額申請について

常勤職にない会員の方は会費減額申請を行うことができますが、65歳未満の会員については、毎年申請し承認を受ける必要があります。承認の連絡を受けてから会費をお振り込みください。5月末が申請期限となっておりますので、お急ぎください。65歳以上の会員の方は、一度承認されれば以後手続きの必要はありません。申請手続きの詳細は、学会ウェブサイトの「お知らせ／人事公募」>「会費減額申請」([https://www.jsfs-family sociology.org/notice/not\\_4.html](https://www.jsfs-family sociology.org/notice/not_4.html))に掲載されています。なお、申請方法が4月よりウェブ上での申請フォームに変更になります。

### 7. 終身会員の申請について

昨年4月より終身会員制度がスタートしています。申請手続きの詳細は、学会ウェブサイトの「お知らせ／人事公募」>「終身会員申請」([https://www.jsfs-family sociology.org/notice/not\\_6.html](https://www.jsfs-family sociology.org/notice/not_6.html))に掲載されています。5月末が申請期限となっております。今年度よりウェブ上での申請フォーム

からの申請を開始しました。

## 8. 入会申請の web フォーム化

4月より入会申請がフォーム化されました。それに伴い推薦者のサインが不要となり、推薦者には通知が届く形に変更になります。学生会員の入会にあたっては指導教授の先生など、「一般」会員が推薦者になっていただくようお願いしています。

(米村千代・千葉大学)

## 全国家族調査(NFRJ)委員会

NFRJ（全国家族調査）の近況についてお知らせします。NFRJ18 に連動して実施されていた NFRJ 質的研究会では、書籍出版の編集作業が進み、数か月内に出版の見込みです。また、学術変革領域 A プロジェクト（生涯学の創出：超高齢社会における発達・加齢観の刷新）の一環として、郵送調査 NFRJ-S23 が 2024 年 2～3 月に実施され、データ整備中です。次に、データの寄託状況です。NFRJ18 データは、SSJDA での公開までいましばらくお待ちください。ICPSR での NFRJ98,03 に遡った寄託もデータ公開待ちです。その他の活動として、前回の学会大会ラウンドテーブルで言及された NFRJ を通した研究会活動について、委員会で検討・準備中です。会員のみなさまの研究活動の一助となることを期待しています。

(保田時男・関西大学)

## 学会賞委員会

今年は第 2 回奨励著書賞の選考の年です。本年 1 月 1 日から 22 日までの推薦受付期間に自薦・他薦があった著書を対象に、現在、選考委員会で審査を行っています。審査結果は 9 月の学会大会総会にて発表いたします。

(多賀 太・関西大学)

## 社会学系コンソーシアム担当理事

(1) 2024 年 1 月 21 日、社会学系コンソーシアム第 7 期第 6 回理事会と第 16 回評議員会がオンラインで開催され、理事会には多賀が、評議員会には久保田理事と多賀が出席しました。理事会・評議員会では、2023 年度の事業報告と決算報告、2024 年度の事業計画と予算案、規約の一部改正が審議了承されました。規約改正に伴い、役員の任期が従来の「2 月 1 日から 2 年間」から「4 月 1 日から 2 年間」に変更されました。

(2) 同日、評議員の互選によるオンライン投票で第 8 期理事選挙が実施され、新役員が選出されました（役員一覧 <http://www.socconso.com/rijikanji/index.html>）。



(3) 2024年3月9日、社会学系コンソーシアム第16回シンポジウム「なぜ、社会的孤立は問題なのか？」がオンラインで開催されました。

(シンポジウム概要 [http://www.socconso.com/symposium/20240309\\_sympo\\_abstract.pdf](http://www.socconso.com/symposium/20240309_sympo_abstract.pdf))。

(4) 2024年3月31日、JCSS ニュースレター第17号がオンラインで発行されました。

(<http://www.socconso.com/newsletter/JCSSNewsletter202403.pdf>)

(多賀 太・関西大学)

## 追悼 正岡寛司先生

池岡義孝（第10期会長）



本学会の第二代会長を務められた正岡寛司先生が、本年2月5日、88歳で逝去された。長く教えを受けお世話になった教え子のなかで最年長にあたる者として、先生の本学会への貢献と長年にわたる家族社会学の研究活動について、追悼の一文を記させていただきます。

正岡先生の本学会への貢献は会長職にとどまらない。本学会は1991年の設立だが、前身である家族社会学セミナーが学会化に向けて1988年に研究団体となった。その年から、1992年に役員選挙が行われて学会としての正式な最初の事務局が淑徳大学に設置されるまで足かけ5年間、先生は早稲田大学文学部で事務局を引き受け、本学会の設立を支えられた。また、学会をあげての事業である全国家族調査（NFRJ）では、1992年から学会の研究活動委員会の初代委員長としてこのプロジェクトの計画と提案および企画を主導された。さらに会長となられた1995年からは、学会に特別委員会「全国家族調査委員会」を設置して本格的検討をバックアップし、1999年の第1回調査の実施にあたっては自ら実施本部長を務められた。このように、正岡先生は準備期間を含む本学会の初期の運営に会長および事務局長として尽力され、さらに全国家族調査の計画から実施にあたってはその中心となって指導力を発揮し、本学会に多大な貢献を果たされたのである。

先生の家族社会学の研究活動については多くの方がご存知だろうから、ここでは概略だけを示しておく。最初は武田良三先生のもとで社会学の理論研究と社会調査を学び、1960年代半ばから1970年代にかけて喜多野清一先生との共同調査研究で日本の伝統的な親族システムの分析に成果をあげ、家族社会学者として頭角を現すことになる。さらに、1980年代に入ると、森岡清美先生が主宰されたライフコース研究の日米共同プロジェクトに主要メンバーとして加わり、ライフコース研究の日本への導入の立役者のひとりとなられた。それをもとに、早稲田大学で数多くのライフコース研究の調査プロジェクトを組織して主導することになる。そのうち現在も継続して行われている主要なものに、武田良三先生のもとで1960年代に参加された常磐炭鉱の地域研究を1990年代に炭鉱離職者のライフコースの追跡調査として立ち上げたプロジェクトや、早稲田大学の新設学部の卒業生の追跡調査がある。

こうした正岡先生の家族社会学研究の特徴は、自分に厳しく一つのところに安住せず、つねに重要な新しい課題を追求していくものとして、わたしには映っていた。また、社会学理論一般を含めて理論と方法論の検討を重視するというのも特徴であったと思う。ところが先生は、その後さらに研究の転換を図ることになる。日本の伝統的な親族システムの解明からライフコース研究への転換も決して小さなものではなかったが、前近代から近代そして現代への歴史的社会的変動のなかで家族の変動を明らかにするという枠組みには共通するものがあつた。しかし、最後の転換は、先生がこれまで研究のバックボーンとしてきた、近代化や近代社会を対象にして人間を社会化理論と社会的行為論から説明するモダニティの社会学を痛烈に批判し、それを乗り越えようという大転換である。それは、モダニティの社会学が切り落とした人間の身体と心の存在と働きを取り込んで、人間とは何か、社会とは何か、家族とは何かを根本的に考え抜くことで、検討する時間幅は大きく拡大し、最新の進化生物学の成果をふまえて人間と類人猿の違いを検討するところまで遡る。先生がこの最後の転換の導きの糸としたのが、感情の社会学と壮大な進化論的な社会学理論を展開しているジョナサン・ターナーだった。

だが、この最後の転換の旅は大きな困難に見舞われることになる。65歳の2000年以降、先生は5度にわたり悪性腫瘍とその疑いのため手術を受けることになる。広島出身の先生は、小学校4年生の時に広島に投下された原子爆弾で被ばくされたが、これらの発症は被ばくとの因果関係を否定できないと国から認定された。さらに2011年には、この最後の旅の同行者で、公私にわたるパートナーであった藤見純子先生に重篤な病が発見され、2016年3月に先立たれることになる。予想もしなかったことで、先生のショックは大きかった。

最晩年の正岡先生は、ターナーの翻訳にそれこそそのめり込むという感じで没頭されていた。そして昨年5月の連休ごろに、そのターナーの著書の最後の翻訳原稿を出版社に渡された。ところが、最後の目標を達成されてホッとされたのか、あるいはそれで生きる目標を失われたのか、先生は急激に衰えていかれ、その後の病院への入院、施設への入所を経て、年が明けた2月初めに亡くなられた。この最後のご様子には、それだけ先生がターナーに命を懸けていた証左だと胸を打たれるものがある。

われわれ教え子たちはこれまで、正岡先生が示された研究の道筋に導かれて先生とともに研究を推進してきた。先生は最後の研究の道筋をターナーの翻訳というかたちで遺された。これまでと同様にわれわれは、先生に導かれてこの道筋に歩み出すのか、出せるのか。ともに歩んで下さった先生亡きあと、ターナーを介して先生と対話して考えていきたい。

## 会員異動（略）